

支援センター名	本埜村奉仕活動・体験活動支援センター
所在地	〒270-2324 千葉県印旛郡本埜村中根1,375
連絡先	Tel 0476-97-2011 Fax 0476-97-3141

事業の概要とポイント

中学校から、里山学習林を整備し環境学習を進めているが、地域の環境を学ぶには最適の場で是非活用してほしいと相談を受けた。支援センターでは、それまでにホテル観察会等の自然体験学習事業を進めていたので、新たに里山観察会等を加えて自然体験学習事業を実施した。その際、地域の環境学習指導者養成講座修了者の方々に相談し、生涯学習課と小・中学校の窓口となって、交渉・調整に当たった。

関係した学校・団体等の名称

本埜村立滝野中学校

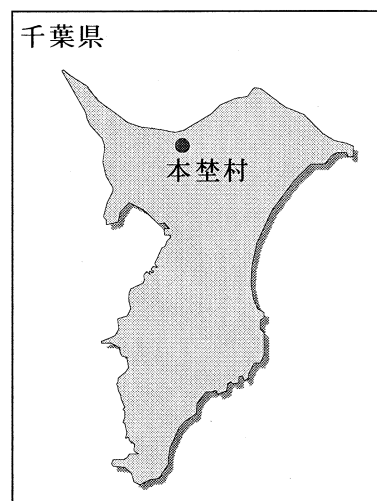
エコロジーモトノ(環境学習指導者養成講座修了者)

里山の会(里山の保護活動等を実施しているボランティアグループ)

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 本埜村 8,312人

本「本埜村」は、千葉県の北部、首都東京からおよそ40km圏、県都千葉市からは30km圏に位置し、東側は標高2~3mの平坦な田園地帯、西側は関東ローム層からなる標高20m~30mの丘陵地帯となっている。近年は白鳥が飛来し「白鳥の郷」として有名になっており、本埜村立本埜第二小学校は、白鳥に関する学習・保護活動を実施し、平成13年には環境省から全国表彰を受けた。本村の一部の滝野地区では、千葉ニュータウン建設事業により、平成9年から入居が開始され、現在、村の人口の半分を占めており、平成12年の国勢調査では、人口増加率日本一となるなど、成田空港や首都圏近郊という地の利もあいまって、都市化の傾向が強まっている。このため、農村と都市の要素が共存、調和する新たな形のまちづくりとともに、この豊かな自然環境と社会環境に対応した教育を積極的に進めている。



企画から活動までの経緯

- 4月18日 滝野中学校と里山観察会(自然体験活動)について打合せをする。
- 4月25日 森林インストラクターの皆さんと里山観察会について打合せをする。
- 5月30日 エコロジーモトノ会員と里山の会会員とともに里山観察会と野鳥観察会、ホタル観察会・チョウの観察会について体験の内容と日程、指導内容等を決めた。
- 6月 4日 村内小中学校にセンターでつくったチラシを配布して、参加者を募った。
- 6月 7日 森林インストラクターの皆さんと里山学習林の下見を行う。
- 6月21日 滝野中学校里山学習林で「夏の里山観察会」及び整備活動を実施。児童の参加者21名、保護者8名参加。実施に当たっては、森林インストラクター3名、教員2名、「里山の会」(エコロジーモトノ)が3名、コーディネーターが参加した。
- 7月12日 ホタル観察会 児童・保護者330名参加。「里山の会」(エコロジーモトノ)10名、コーディネーターが参加。
- 7月26日 チョウ観察会 児童の参加者9名。「里山の会」(エコロジーモトノ)5名、コーディネーターが参加。
- 10月26日 秋の里山観察会 児童の参加者15名。保護者3名参加。森林インストラクター4名、教員1名、「里山の会」(エコロジーモトノ)7名、コーディネーターが参加。
- 12月13日 野鳥観察会 児童の参加者11名。保護者2名参加。「里山の会」(エコロジーモトノ)7名、コーディネーターが参加。
- 1月24日 冬の里山観察会及び整備活動 児童の参加者12名。保護者2名参加。森林インストラクター4名、「里山の会」(エコロジーモトノ)5名、コーディネーターが参加。

事例の展開内容(特色など)

滝野中学校では、地域の里山を無償で借りて里山学習林と位置づけて整備。そこで、総合的な学習の時間等の中で里山についての学習を始めた。借りた当初の里山は人の手入れが行き届かずに、笹などが繁茂していた。そこで、校長先生をはじめ、先生方や生徒・保護者、地域の皆さんで整備をし、身近な自然を観察することのできる学習林へとなっていった。今でも観察会と平行して整備活動を行っている。

せっかく身近なところにすばらしい教材があることから、地域の自然を知ることと奉仕活動を合わせた事業を進めていくことになり、学校だけでは困難なので、森林インストラクター・地域の方々の協力を得て進めていくこととなった。そこでコーディネーターが間に入って、学校・森林インストラクター・地域の環境学習講座修了者(エコロジーモトノ：エコモ)・里山の会等に依頼し実施することとなった。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

地域で子どもを育てる環境づくり。

「生きる力」を育み、心豊かな青少年の育成には、様々な体験活動を充実させていくことが大切である。そのために、活動の機会の充実と地域の中での活動の場を開拓し、活動を支援する指導者やボランティアを確保(募集・登録)し、地域で子どもを育てる環境づくりを推進していく。そのため、本塾村の自然の中で豊かな体験活動等が展開されるようコーディネ

ネットを行い、活動の実施に当たっては、学校・森林インストラクター・エコモ会員・里山の会会員等との連絡を密にする必要がある。

評 価

身近な自然観察や整備活動をとおして、自然保護の必要性の自覚が高まってきている。体験活動に保護者も一緒に参加することで、活動のPRになるとともに活動への協力も得られるようになってきている。また、森林インストラクターや里山の会会員の皆さんも、子どもたちとのふれあいをとおして活動への意欲の向上につながっているようである。今後さらに、地域の中での体験活動やボランティア活動の場の開拓とボランティアの募集・登録等について推進を図っていく必要がある。また、学校の教育活動に定着させることが必要である。



里山観察会の様子

